

# 国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 永井 陽寛

渡邊 芳

1. 日 時 令和5年11月1日 第5時限 14:00～14:45

2. 場 所 第3学年2組教室

3. 学年・組 第3学年2組(36名)

4. 単 元 名 「すがたをかえる〇〇を書こう」

教材文：「すがたをかえる大豆」国分 牧衛(光村図書)

「食べ物のひみつを教えます」

## 5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"><li>・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。【(2)イ】</li><li>・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【(3)オ】</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 【B 書くこと(1)ウ】</li><li>・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 【C 読むこと(1)ア】</li><li>・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 【C 読むこと(1)オ】</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li></ul>

## 6. 本単元で取り組む言語活動

「すがたをかえる〇〇」を書こう

## 7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使おうとしている。【(2)イ】	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係などにつ	①積極的に説明されている内容とそれを支える事例との関係について叙述を基に捉えた

<p>②幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。【(3)オ】</p>	<p>いて、叙述を基に捉えている。【書くこと B(1)ウ】</p> <p>②「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【読むこと C(1)ア】</p> <p>③文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【読むこと C(1)オ】</p>	<p>り、それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見つけてそれをいかして書こうとしている。</p>
--	--	---

## 8. 指導にあたって

### (1)児童観

第3学年になり、説明的な文章で「言葉であそぼう」「こまを楽しむ」「鳥になったきょうりゅうの話」を学習してきた。「言葉であそぼう」「こまを楽しむ」の学習では、段落の役割を理解し、話の中心や全体の構成を意識しながら文章を読み進めた。そして、読み手として筆者の書きぶりの工夫を見つけたり、あらかじめ準備した文章（エラーモデル）を提示して、筆者 VS 教師というように、どちらの書きぶりのほうがわかりやすいか批評的に読んだりしながら、説明文の書き方のコツを考えた。さらに言語活動として「〇〇を楽しむ」という説明文を書いた。学習した書き方のコツを活用しながら、自分たちの身近な遊び（折り紙・すごろく・トランプ）をどのように伝えようと、楽しさがより読み手に伝わるか考えながら表現することに挑戦した。

「鳥になったきょうりゅうの話」の学習では、説明文の構成を再確認しながら進めたが、まだまだ文章構成の定着が薄かった。そのため「こまを楽しむ」と丁寧に比較しながら学習を進めた。題名から想像する話の内容を交流し、題名と筆者の伝えたいことはつながっていることを確認した。「すがたをかえる大豆」での題名設定の学習での気づきにつなげたい。また、今まで出会ってきた説明文では、問いが書かれていたが、問いが書かれていない文章もあることに気付くことができた。言語活動では「こまを楽しむ」と同様に、筆者の書きぶりのよさを取り入れながら、「〇〇になった〇〇の話」という説明文を書いた。

本学級の児童は、何事にも前向きに取り組み、素直に教材に出会うことができる。しかし、自分の考えを「書く」「伝える」ことに抵抗がある児童が多く、特定の児童が交流するという状況で、意見がなかなか深まらなかった。そこで、1学期から友だちの意見と同じでも、言葉にしてみることで、書いてみることを大切さを伝え続けた。また、伝える側が安心して発言できるように、席替えを実施後、「お互いのことを知るトーク」を行った。そこで、うなずいて聞いたり、相手の方を向いて話を聞いたりする、聞く側の姿勢を意識させた。このような取り組みから、書いたり伝えたりしてやることで、意見の違いに出会い、交流する楽しさを少しずつ味わえるようになってきた。

本単元の学習を通して、1学期に学んできたことをいかしながら、まずは事例の順序から筆者の意図を読み取ってほしい。「どうしてこの書き方にしたか。」「わかりやすいが、他にも表現のしかたがあるのでは。」など、常に自分はどう思うか考えながら、学習を進めてほしい。そして、読み取ったことを書く活動の際に、活用できるようにしたい。「すがたをかえる〇〇」という題名で、自ら題材を選択して調べ、今までの学習を活用しながら、読み手にとってわかりやすい文章を書く力をつけたい。そして、文章を書くことの楽しさを引き続き、味わってほしい。

## (2)教材観

本単元では、「すがたをかえる大豆」を読んで説明のしかたの工夫を理解し、それらを活用して、児童自身が人に伝えたいと思う食べ物について、説明する文章を書くことで力の定着を図ることができる。

「すがたをかえる大豆」では「初め」「中」「終わり」に分けられ、「中」には事例が列挙されている文章構成になっている。事例が順序立てて整理されていること、写真資料が効果的に使われていることなどにも気付かせる。事例の順序について考えさせることは、「次に」「さらに」といった接続語の理解や、筆者の意図に迫ることにつながる。ここで考えた説明のしかたの工夫をいかして、説明文を書く活動につなげる。

「食べ物のひみつを教えます」では読み手にとってわかりやすい文章を書くことを主眼とする。「すがたをかえる大豆」で考えた書き方の工夫や作例の文章を手がかりに、説明のしかたの工夫を改めて確認してから書いていく。また、一連の活動のなかで、書籍を使って調べたり、集めた情報を整理したりするなど、読書や情報整理に関わる内容も身につけることができる。

食べ物という児童にとって身近な話題であるが、加工された食品の原料は意外と知らないものが多い。加工食品に関する児童用の図書資料も数多く出版されているため、調べ学習としても進めていける。また、料理に関する語彙の拡充や、食育の観点からも意義をもつ題材となっている。

## (3)指導観

今年度の研究テーマ「単元をデザインし、子どもの読みをつなぎ、深める授業のあり方～考えの形成をめざした授業づくり～」の実現のため、「書くために読む」「読んだことを書く」を大切に、単元の最後の言語活動が形式的なものにならず、子どもたちが自らの書きたい考えを形成できるように単元をデザインしてきた。そのために必要なことは「対話」である。自己との対話、筆者との対話、仲間との対話を授業の中で行うことで、考えが形成され深まっていくと考える。対話を生み出すには考えの「ズレ」が必要である。それぞれが考えをもち、そこから交流を始める。まずは、「読み手の立場」で考えをもたせる。読後に得た実感を大切にして、その心の動きを起点に「問い」化していく。

単元の言語活動として、「すがたをかえる〇〇を書こう」を設定する。子どもたち自身が説明文を書くために、作品を読み進める中で書き方のコツを考え、言語活動にいかせるようにする。

まず、第1次で身近にある大豆製品について調べることから始める。本文に「ほとんど毎日口にしている」と書かれてあるが、実際に調べることで、事例として挙げられている食品や知っ

ている食品以外にもまだまだ身近にあることに気付かせたい。ここで調べた食品を第2次につなげていく。

第2次では、「一番すがたを変えているランキング」を考えることで、自分の考えをつくってから交流し、仲間とのズレを生み出していく。子どもたちはランキングをつくることで、自然と事例の把握にもつながる。今回のような具体的事例が列挙されている教材は事例の比較を用いることで、一つひとつを丁寧に読み取らなくても、学級としての読みを深めていくことができる。また、すべての事例が「すがたをかえている」ので、どの事例で選んでも不正解はなく、安心して考えが表明でき、自分の解釈を根拠と理由とともに述べ、その理由にそれぞれの面白さがにじみ出てくる。はじめから「筆者の工夫を見つけよう」では、受け身になってしまうが、ここで形成された考えをもって、筆者の意図を読むことで、筆者との対話が生まれてくる。「自分はこう考えたが、筆者はどうだろう」が学習に主体的に取り組む動機になる。筆者の事例の順序性は「豆まきに使う豆」から「しょうゆ」まではすがたが変わっている順として読み取れる。しかし、その後列挙される「えだ豆」と「もやし」の順序性に違和感がある。この二つはダイズの種である「大豆」ではなく、植物であるダイズそのものの取り入れる時期や育て方を工夫した食べ方である。読者へのインパクトでいえば最後を「みそ」や「しょうゆ」にしたほうがいいだろう。子どもたちの順位予想でも優位だろう。この異なる視点の事例の必要性を問うことで、さらに筆者の意図に迫っていくことが可能である。この「異なった視点の事例」は4年生の教材である「アップとルーズで伝える」にもつながってくる。筆者のおどろきである「昔の人々のちえ」をより読者に届けたいという想いが読み取れる。では、筆者の想いに寄り添うならば、題名は「昔の人々のちえ」のほうがよいのではないか。子どもたちにそう問えば、さらに考えを広げるであろう。筆者があえて「すがたをかえる」にした意図とはなにかを考えることで、題名の働きにも目を向けさせていきたい。【本時1】

さらに、「そのほかの事例ではどうか」という時間も設定する。初発の段階で身近にある大豆製品に目を向け、本文には出てきていない、子どもたちになじみのある食品や最近広まってきた食品を、「本文に入れるとしたらどこに入れるか」を考えることで、事例の順序性だけではなく、事例のとりあげ方の学習に展開できる。そこから、筆者のおどろきである「昔の人々のちえ」だけではなく、「現代の人々のちえ」は必要ないかどうかを考えることで、これからの生活にも目を向けた学習になる。また、筆者は限られた紙幅の中で、数ある選択肢から何を選び、何を伝えるのかを考えている。読み手の立場から書き手の立場で考えることで、単元の最後の書く活動につなげていく。

単元の最後に、読み手の立場、書き手の立場の双方で考えたことをいかして「すがたをかえる〇〇」の活動を行う。自分が伝えたいことは何か、どういう順序で書けばよいか、読者がよりわかりやすくなるためにはどのような工夫をすればよいかを考えながら、それぞれの説明文を書き上げていってほしい。

9. 単元の指導と評価の計画（全13時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文「すがたをかえる大豆」と出会い、初発の感想を書く。</li> <li>・語句の確認をし、身近にある大豆製品について知っていることを出し合う。</li> <li>・単元のゴール「すがたをかえる○○を書こう」を知る。</li> </ul>	○		○	幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。【知・技②】 〈行動観察・ノート〉
2	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の組み立てを捉え、文章の説明に合った「問い」を考える。</li> <li>・教材文を読み「すがたをかえているランキング」を作り、交流する。</li> <li>・筆者の意図(順序性・筆者の伝えたいこと・題名)を読み取り、自分の考えをもつ。【本時】</li> <li>・「身近にある大豆製品を教材文に入れるとしたらどの段落に入るか」を考え、交流する。</li> <li>・学習したことをレポートにまとめる。</li> </ul>	○	○  ◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。【知・技①】〈行動観察・ノート〉</li> <li>・筆者の意図を読み取り、自分の考えをつくっている。【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉</li> <li>・書き手としての考えをもっている。【思・判・表③】〈行動観察・ノート〉</li> </ul>
3	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すがたをかえる○○」を書き、交流する。</li> </ul>	◎	◎	◎	自ら題材を選び、学習したことを基に工夫して文章を書いている。【知・技①②】【思・判・表①】【主】〈行動観察・ノート〉

## 10. 本時の展開(6/13時間目)

### (1) 本時の目標

- ・筆者の意図(順序性・筆者の伝えたいこと・題名)を読み取り、書くための考えをつくることができる。【思考・判断・表現②】

### (2) 本時の評価規準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
筆者の意図を理解したことに基づき、自分の考えをもっている。【思・判・表②】	自分が書く際にどうするかを選択できるように、板書を基に考えるように促す。【思・判・表②】

### (3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時の学習を振り返る。	・前時の学習と本時の学習をつなぎ、必要性を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">筆者の例の並べ方には考えがある？</div>		
2. 筆者の例の順序を確認し、考えを交流する。	・黒板にカードを貼る。 前時に考えた「すがたをかえたランキング」とつなげながら考えさせる。	
3. 筆者の書きぶりに対して自分の考えをもつ。 (1)⑦段落の必要性について交流する。 (2) 筆者の伝えたいこと「昔の人々のちえにおどろかされます」から題名について交流する。	・「⑦段落(えだ豆、もやし)の例は必要かどうか」を問う。 ・「題名は昔の人々のちえでよいのではないか」を問う。	思考・判断・表現② (行動観察・ノート) 【記録に残す評価】
4. 振り返りを書く。	・「すがたをかえる〇〇」を書く際に自分はどうのような書き方にするかについて書かせる。	思考・判断・表現② (行動観察・ノート) 【記録に残す評価】